

* * イ カ ナ ゴ 情 報 No. 3 * *

中央水産試験場
後志南部地区水産技術普及指導所

調査の概要

2010年5月20日に、今漁期の5月5日から5月20日までに採集していただいた島牧海域の漁獲物標本を指導所に持ち寄り、漁協と役場の皆様、指導所職員、水試職員で体長測定を実施しました。現在までの資源状況などについて検討しましたので、お知らせします。

- ・複数のふ化群が連続して加入していることで、魚体のバラツキが大きい
- ・成長は5月半ば頃まで著しく遅く、最近になり例年並みで推移
- ・5月20日時点で、適正サイズ前のふ化群が多くみられている

各標本の体長組成のモード推移から、発生時期の異なる5～6群が漁獲対象となっていると考えられ、これらふ化群の成長傾向を下図に示しています。前報で報告しました初漁期調査（4月27日）で、確認できた最も小さなふ化群（図中の■）が、5月5～6日時点で10mm台後半まで成長し、5月20日時点で20mm台後半に達しています。5月半ば頃までの成長量は、それ以前に発生したふ化群（△、●、*、○）も同様に、1日あたり0.4～0.5mmと、例年に比べ著しく低い成長量でした。これは春先からの低水温傾向が原因のひとつになっていると考えられます。ただし、5月半ば以降は成長が例年並みで推移している傾向がみられました。

また、5月半ば頃から、さらに新たなふ化群（◆）が漁獲物中にみられるようになっていきます。このふ化群のサイズは5月20日時点で平均19mmですので、あと1週間ほどで適正サイズとなる見込みです。ここ数日の標本にはこの小型群の占める割合が例年に比べて多い傾向がありました。今後の漁獲物が、■、◆のふ化群主体であることを想定しますと、それらの豊度にもよりますが、6月上旬頃までは漁獲対象となることが予想されます。

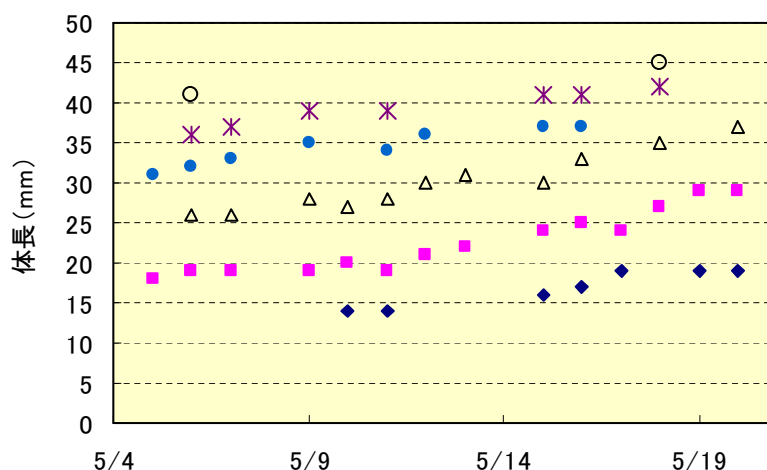


図 体長組成のモードの変化